

新菱冷熱 CSR レポート 2014

Create a Freshening World — さわやかな世界をつくる —

Create
a Freshening
World

さわやかな世界をつくる



新菱冷熱

shinryo.com

会社概要

商号	新菱冷熱工業株式会社 SHINRYO CORPORATION	主なグループ会社 新菱工業株式会社、秋田キャッスルホテル、 関東冷機株式会社、菱栄工業株式会社、 新菱テクニカルサービス株式会社、 株式会社グローバルスタッフ、株式会社城口研究所、 大栄電気株式会社、株式会社美光写苑、 SHINRYO (HONG KONG) LTD., TAIWAN SHINRYO CO., LTD., SHINRYO (PHILIPPINES) COMPANY, INC., Thai Shinryo Limited, SHINRYO (MALAYSIA) SDN. BHD., SHINRYO SINGAPORE PTE LTD, PT. SHINRYO INDONESIA, SHINRYO VIETNAM CORPORATION
本社住所	東京都新宿区四谷二丁目4番地	
電話	(03)3357-2151 (大代表)	
設立	1956年(昭和31年)2月23日	
代表取締役社長	加賀美 猛	
従業員数 (2014年9月末現在)	2,001名(単体) 4,973名(グループ会社を含む)	
資本金	35億円	



新菱冷熱工業株式会社 本社

主な事業内容

● 各種設備工事の設計・施工

- 空気調和設備工事
冷暖房および換気設備／産業空調換気設備／恒温恒湿設備／環境試験設備／クリーンルーム／バイオクリーンルーム／ドライルーム／氷蓄熱設備
- 給排水衛生設備工事
給水設備／給湯設備／ガス設備／排水設備／厨房設備
- 自動制御設備工事
集中管理システム／計装設備
- 防災設備工事
火災報知設備／排煙設備／避難誘導設備／
屋内消火栓・屋外消火栓・スプリンクラー・二酸化炭素その他各種消火設備
- 電気設備工事
屋内配線設備／弱電設備／受変電設備／送配電設備／自家発電設備
- 都市設備工事
地域冷暖房設備／廃棄物空気輸送設備／特定電気事業設備
- 情報管理システム工事
各種都市プラント・産業設備・ビルなどの制御および施設管理システム
- コージェネレーション設備工事
発電設備／排熱利用設備
- 燃料エネルギー設備工事
原子力・火力発電所・燃料サイクル関連施設および各種試験研究のプロセスならびに
換気空調設備／特殊フィルタ装置／廃棄物処理装置
- 環境衛生設備工事
上水道設備／下水道設備／中水道設備／污水处理設備／産業排水処理設備／
ごみ処理・集塵処理設備
- プラント設備工事
薬品・食品プラント設備／石油関連プラント設備／その他プラント設備
- 低温設備工事
冷凍冷蔵設備／超低温および精密温調冷却装置
- 特殊設備工事
太陽エネルギー利用設備／水族館設備／栽培漁業設備／プール設備／
バイオハザード設備／超清浄空間設備／人工気象室／人工降雪設備

● 建築工事の設計・施工

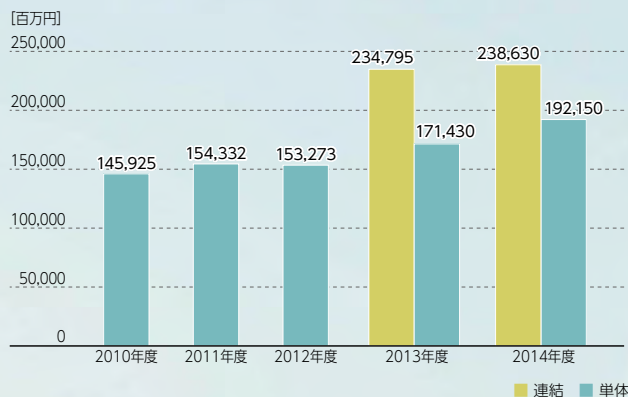
クリーンルーム建屋／プラント建屋／内装工事／設備工事に付帯する建築工事／
一般建築設備

● 空調機器類販売

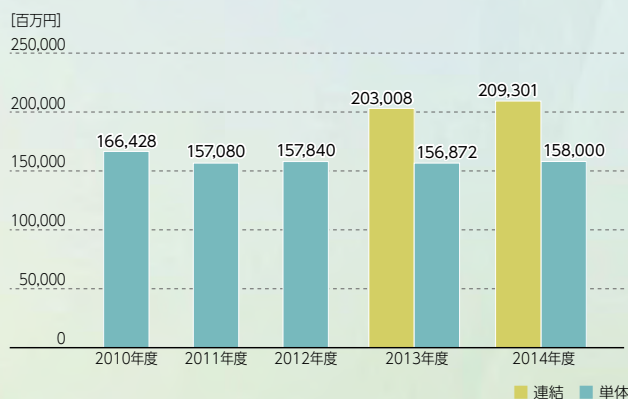
空調機・冷熱製品／換気送風機／衛生陶器／その他空調機関連商品

業績の推移

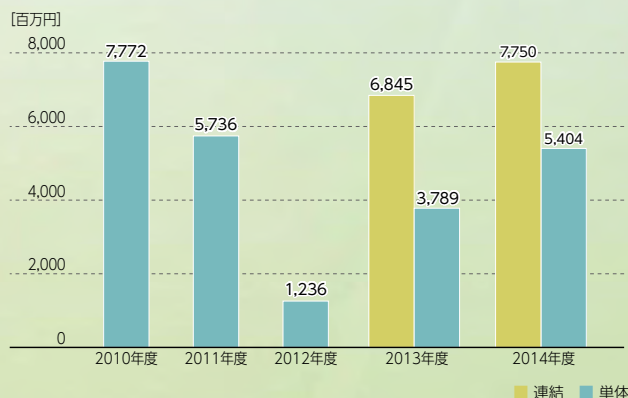
●受注高



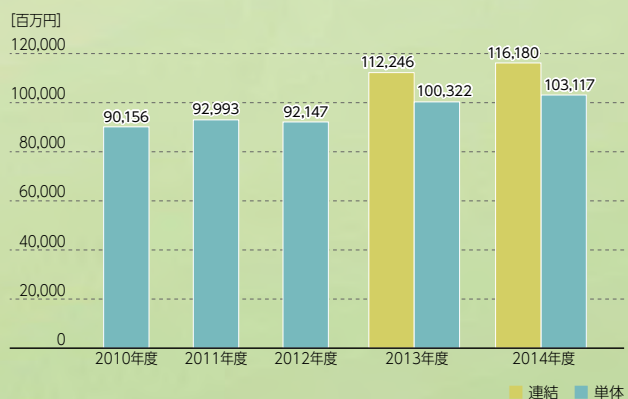
●完成工事高



●経常利益



●自己資本



目次

- 3 トップメッセージ
- 7 事業ネットワーク
- 9 CSRの考え方
- 11 CSR宣言とマテリアリティ
- 13 **特集1** 新菱サプライチェーンシステム
 整流化された業務モデルを取引先とともに
- 15 **特集2** 人と技術のグローバル展開
 人と技術でつながる。
 世界から信頼される環境創造企業へ
- 17 **特集3** 教育・人材育成
 グローバルに活躍できる人材の育成を通じて、
 技術と知識と経験を次世代へ
- 19 課題と成果・取り組み
 CSR活動トピックス
- 21 環境／消費者課題
- 24 組織統治
- 25 公正な事業慣行
- 28 人権／労働慣行
- 30 コミュニティへの参画および発展

●編集方針

新菱冷熱のCSR(企業の社会的責任)への取り組みについて、ステークホルダーの皆様にご理解を深めていただけるような報告書を目指しています。

●対象期間

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)を中心に、一部にはその前後を含みます。

●報告対象範囲

原則として、新菱冷熱工業(株)のCSR活動について報告しています。一部には日本および海外のグループ会社における活動も掲載しています。

●参考にしたガイドラインや規格

ISO26000
 GRI (Global Reporting Initiative)
 サステナビリティ リポーティングガイドライン第4版 (G4)

●発行年月

今回:2014年12月 次回:2015年12月(予定)

●発行責任部署および連絡先

新菱冷熱工業株式会社 CSR推進室
 TEL 03-3357-2151(大代表) FAX 03-3357-4914

トップメッセージ

さわやかな世界をつくる

環境創造企業として、
社会の持続的発展への貢献に誠実に取り組み、
グローバルな視点で「さわやかな世界」の実現を目指し続けます。



代表取締役社長

加賀美 猛

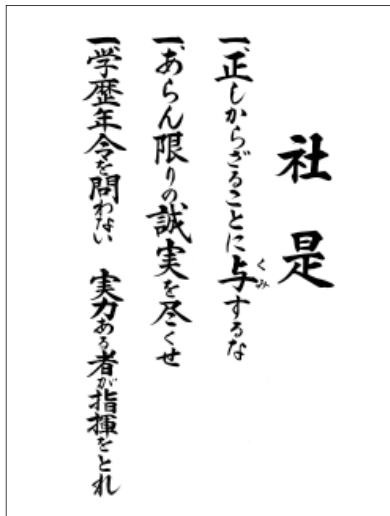
はじめに

1956年の創業以来、新菱冷熱は建築設備を中心に幅広い分野において活動を続けております。とくに空調設備業界では、環境創造のリーディングカンパニーとしての責任をもって事業展開を進めている会社です。近年では、衛生設備・電気設備等を主業とするグループ会社と連携することにより、総合エンジニアリング企業としてお客様のさまざまなニーズにお応えできる体制を確立しております。

社是・経営ビジョンとCSR活動の開始

新菱冷熱には、創業者の哲学であり、社員の基本精神である社是があります。われわれは、社是にこめられた創業の精神をしっかりと胸に刻み、お客様や社会から必要とされる存在であり続けることを目指して活動してきました。さらに近年には、社是の精神を基盤

社是



この社是は、創業者、故 加賀美勝会長が信念としていた人生観・事業観を表現したものです。新菱冷熱はこの精神を実業の世界で具現化するために創設されました。この3カ条は新菱冷熱の原点であり、社員が考えるとき、決断するとき、行動するとき、すべてにおいてその根本となります。

とした活動を社員により深く浸透させること、社会の皆様にわれわれの活動をよく知っていただくことの重要性を思い、CSR活動の推進体制を整えることとしました。そして、これまでの環境に対する活動を、社会への責任を担う活動に発展させ、第1号となる「新菱冷熱 CSRレポート2014」を発行することができました。新菱冷熱のCSRを考えるにあたっては、これまでモットーとしてきた「さわやかな世界をつくる(Create a Freshening World)」を経営ビジョンに定め、目標とする世界をしっかりと明確にしました。さらに社是・経営ビジョンのもと、新菱冷熱が目指す世界の実現に向けた戦略として「新菱冷熱CSR宣言」を策定しました。

国際的な活動

さわやかな世界を地球上のさまざまな地域へ。総合エンジニアリング企業としての思いは、1972年、業界に先駆けて海外事業に着手することから始まり、現

新菱冷熱CSR宣言

われわれ新菱冷熱は、経営ビジョンのもと、次の3つの取り組みを宣言し、環境創造企業に進化します。

- 1 先端的な生産手段を駆使した新たな業務モデルによる、高品質・省資源・省エネルギーな「ものづくり」と、快適で最適なライフサイクルマネジメントを実現させた独自の「ワンストップサービス」を提供します。
- 2 これらの技術をグローバルに展開し、地球温暖化防止、エネルギーの安全・安心で有効な利用という社会的課題の解決に取り組んでいきます。
- 3 そして、すべての事業活動の基盤となる透明性の高い経営とはたらきやすい企業風土の醸成に取り組みます。

在、活動の場はアジア・中東地域を中心に広がっています。海外では、各種空調設備のほか、地域冷房施設やコージェネレーション施設などの工事实績を上げ、おかげさまで、各地域で高い評価を得ております。これは、新菱冷熱としての技術力だけでなく、海外の各拠点におけるスタッフとの強い連携力によると感じています。

これからますます、国際社会に対しての社会的責任を果たしていくためにも、国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト」への参加を表明し、2014年度において参加企業として登録されました。人権・労働・環境・腐敗防止に関わる10原則を支持し、国際的にも新菱冷熱の社会的責任活動を推進していきます。

研究開発

1970年、東京都品川区に業界初の技術研究所を設置して以来、研究開発に力を入れてきております。

1990年には茨城県つくば市の研究学園都市に場所を移し、業界トップクラスの規模と設備を誇る「中央研究所」を設立しました。不断の努力による研究、その成果は、新菱冷熱のさまざまな設備関連技術に活かされています。また、すぐれた施工技術や製品・システムの開発を促進するよう営業・設計・施工との連携も進めています。努力の積み重ねこそが新たな技術革新をもたらすと信じ、これからも次世代へと受け継がれる確かな技術の確立に努めてまいります。

人材育成・教育

新菱冷熱の人材育成においては、社員研修施設「耕風寮」における教育が大きな特長です。人は最大の財

産と考える新菱冷熱では、同期の社員が入社年度とともに耕風寮で過ごすことで、絆を強めています。また、教育制度を充実させ、社会情勢の変化、めまぐるしく変化する経済状況、最重要課題ともいえる環境問題などに対応できる社員を育成しています。こうして育つ社員こそが新菱冷熱の技術力であり、社会に貢献する力となっていきます。

生産性向上、その先を目指して

現在の建設業界は大きな課題を抱えています。材料・労務費の高騰、熟練工の不足などがそれであり、近い将来には需要の急激な落ち込みなど、難しい市場状況がやってくると予想されます。これらの難問の解決

沿革

1956年～1999年

1956年 本社を東京都港区西久保巴町45番地に置き、資本金500万円をもって創業

1957年 当時日本最大のビルといわれた新大手町ビルを受注し、会社の基礎を確立

1958年 大阪営業所(現 大阪支社)を開設

1960年 本社を東京都新宿区四谷二丁目四番地の現在地に移転

1961年 名古屋営業所(現 名古屋支社)を開設

1964年 事業部制を採用
工事部(現 首都圏事業部)、
機器部(現 機器設備事業部)を開設

1966年 広島営業所(現 中国支社)を開設
横浜営業所(現 横浜支社)を開設

1967年 仙台営業所(現 東北支社)を開設

1969年 福岡営業所(現 九州支社)を開設

1970年 業界初の技術研究所(現 中央研究所)を設立
原子力部(現 燃料エネルギー事業部)を開設し、原子力利用のエネルギープラント界へ本格進出

1972年 海外工事に本格進出

1973年 都市設備部(現 都市環境事業部)を開設し、都市計画・都市再開発などの大規模プロジェクトに対処できる体制を敷く

1977年 舞鶴工場を開設

1978年 香港営業所を開設し、海外展開の本拠地とする

1979年 外国部(現 香港支社、シンガポール支社)を開設し、海外展開を事業の大きな柱とする
建設省(現 国土交通省)、管工事登録格付第一位

1982年 香港に現地法人設立(新菱香港)

1983年 マレーシアに現地法人設立(新菱マレーシア)
シンガポール営業所を開設

1986年 タイに現地法人設立(タイ新菱)

1987年 台湾に現地法人設立(台湾新菱)

1990年 筑波研究学園都市に中央研究所を開設
フィリピンに現地法人設立(新菱フィリピン)

1992年 技術統括部を開設／安全統括部を開設

1994年 インドネシアに現地法人設立(新菱インドネシア)

1998年 ISO9000s認証取得開始

2000年～

2001年 ISO14001認証取得
シンガポールに現地法人設立(新菱シンガポール)

2005年 ドバイ営業所を開設
マカオ営業所を開設

2007年 ベトナムに現地法人設立(新菱ベトナム)
アブダビ営業所を開設

2010年 管理本部を開設
首都圏事業本部を開設
(現 首都圏事業部、都市環境事業部)
計装エンジニアリング事業部を開設

2011年 執行役員制度を採用
高浜工場を新設し、舞鶴工場の機能を移管

2013年 技術統括本部を開設
首都圏事業部を開設
都市環境事業部を開設
機器設備事業部を開設
横浜支社を開設
香港支社を開設
シンガポール支社を開設

に対しては、生産性「向上」を図る、というレベルでは足りず、まったく新たな手法による生産「革命」的な変化を起こす必要があると考えています。そのような中で、新菱冷熱は、従来からの常識に囚われない、独自の業務モデル「新菱サプライチェーンシステム」の構築を進めています。お取引先（商社、メーカー、協力会社等）との合理的かつ迅速な連携を図り、われわれだけでなく、お取引先とともに価値を見出せる体制を目指していきます。

コミュニケーションを図りながら、CSR活動を推進してまいります。また、環境創造企業として、正々堂々と誠実に、国際社会の信頼に応え、社会からの要請に自発的・積極的に取り組み、地球環境の保全と社会の持続的発展に貢献していきます。

また、新菱冷熱の活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、毎年「新菱冷熱 CSRレポート」を通じた情報発信をしてまいります。

今後ともご支援ご指導いただきますよう、お願い申し上げます。

すべてのステークホルダーの皆様とともに

新菱冷熱は、社会的責任に関する国際規格であるISO26000に沿って、ステークホルダーの皆様とのコ

国連グローバル・コンパクトへの参画

2014年9月、新菱冷熱は、国連が提唱する国連グローバル・コンパクトに署名・参加しました。これから新菱冷熱は、国連グローバル・コンパクトにおける4分野10原則に沿った事業活動を推進していきます。

国連グローバル・コンパクトの趣旨に賛同する気持ちだけでなく、海外での技術提供にも力を注ぐ新菱冷熱にとって、国際グローバル・コンパクトへの参画は、国際社会から信頼

される企業に成長したいという気持ちの表明でもあります。CSRの骨子である、「さわやかな世界をつくる」ための活動は、世界に向けた活動にしたいと考えています。



Network Japan

国連グローバル・コンパクトの10原則

- **人権**
 - 原則1 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
 - 原則2 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
- **労働**
 - 原則3 企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、
 - 原則4 あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
 - 原則5 児童労働の実効的な廃止を支持し、
 - 原則6 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
- **環境**
 - 原則7 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
 - 原則8 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
 - 原則9 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
- **腐敗防止**
 - 原則10 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

これからもさわやかを世界中に

新菱冷熱は、日本全国の拠点から、人にも環境にもやさしい空調・給排水衛生・電気設備、最先端の製品を生み出す生産環境を構築する確かな技術力、街・地域にやさしい地域冷暖房システム、安心安全なプラント設備技術、保守管理や省エネルギーを支援する総合情報システムを提供してきました。また、海外では、アジア・中東を中心に拠点を設け、新菱冷熱の「さわやか」を世界にお届けしています。



東京スカイツリー®地区・地域冷暖房
(東京都墨田区)

海外ネットワーク (16拠点)

- 支社(2拠点)
- 営業所・センター(6拠点)
- 現地法人(8拠点)



みなとみらい21中央地区・地域冷暖房
(神奈川県横浜市)



大手町地区・丸の内一丁目地区他・地域冷暖房
(東京都千代田区)

● ドバイ営業所
● アブダビ営業所

● 新菱香港
● マカオ営業所
● 香港支社
● 香港営業所
● 台湾新菱

● タイ新菱

● 新菱ベトナム

● 新菱フィリピン

● KLエンジニアリングセンター
● 新菱マレーシア

● シンガポール支社
● シンガポール営業所
● 新菱シンガポール

● 新菱インドネシア



ディスカバリーガーデン地域冷房
プラント(ドバイ)



クアラルンプール国際空港(マレーシア)



香港地下鉄(香港)



プトラジャヤ地区1
DCSプラント(マレーシア)



チャンギ国際空港ターミナル3(シンガポール)
"Courtesy of Civil Aviation
Authority of Singapore"



ザ・ヴェネチアン®・マカオ・リゾート・ホテル
(マカオ)



香港上海銀行本店ビル(香港)



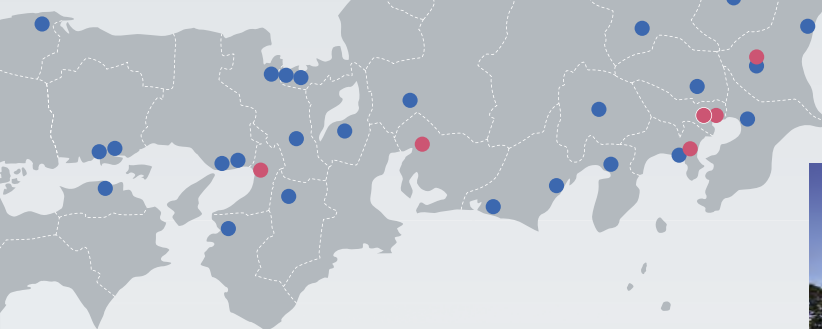
明治生命館・明治安田生命ビル
(東京都千代田区)



丸の内永楽ビルディング
三井住友信託銀行本店ビル
三菱東京UFJ銀行丸の内1丁目ビル
(東京都千代田区)



西新宿六丁目地区地域冷暖房施設
第3プラント・地域冷暖房(東京都新宿区)



国内ネットワーク (54拠点)

- 本社・支社・研究所
(10拠点)
- 支店・営業所・出張所・工場等
(44拠点)



パレスホテル東京・パレスビル
(東京都千代田区)



横浜ランドマークタワー
(神奈川県横浜市)



錦糸町熱供給・中央監視システム
(東京都墨田区)



関東グリコ北本ファクトリー
(埼玉県北本市)



シャープ株式会社亀山工場
(三重県亀山市)



新宿地域冷暖房センター・中央監視システム
(東京都新宿区)



スタンレー電気株式会社
秦野製作所1号館(神奈川県秦野市)



本田技研工業株式会社和光ビル
(埼玉県和光市)

経営ビジョンとCSR推進体系

新菱冷熱は、経営ビジョンに沿った事業活動を行うとともに、社会的責任に関する規格であるISO26000に基づきCSR活動を推進しています。ISO26000の7つの中核主題と新菱冷熱の事業活動を照らし合わせ、中長期視点のCSR経営を目指すことで、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

経営ビジョン

新菱冷熱は、経営ビジョンに沿った事業活動を行っています。経営ビジョンとは新菱冷熱が目指し続けるものであり、こうした活動が社会の持続的発展への貢献につながっていくと考えています。

さわやかな世界をつくる

さわやかな**環境**を創造する → 快適で地球に優しい空間創造

さわやかな**経営**を推進する → 法令遵守と透明性の高い経営

さわやかな**風土**を醸成する → 人を育む働きやすい企業風土

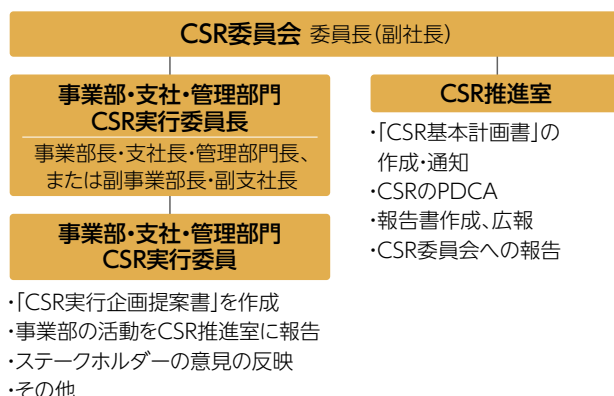
CSR推進体系



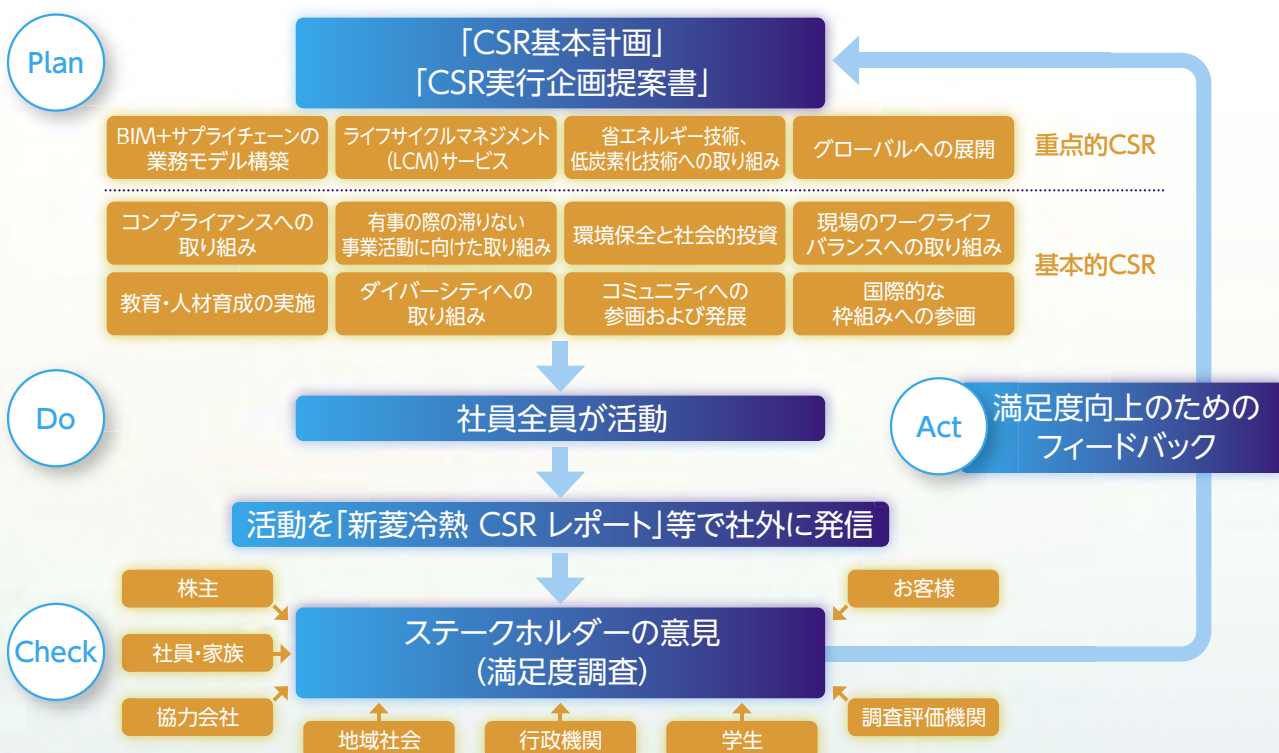
CSR推進体制

新菱冷熱のCSRへの取り組みは、2013年のCSR検討委員会からスタートしました。検討委員会では、新菱冷熱らしいCSRについて議論を重ね、2014年5月に正式な部署としてCSR推進室を設置することができました。経営ビジョンである「さわやかな世界をつくる」の実現を目指し、右図のような副社長を委員長とするCSR委員会を設置しています。CSR推進室が中心となり、各部署から選ばれたCSR実行委員とともに活動を推進しています。

●CSR推進体制



CSR活動のPDCA



新菱冷熱のCSR宣言

「さわやかな世界をつくる」ための戦略を、社員の意見を反映しながら「新菱冷熱CSR宣言」という形にしました。
この宣言を具体化する新菱冷熱の事業や活動を、すべてのステークホルダーの皆様にはわかりやすくご報告するため、
4つの重点課題と基本となる8テーマに整理しました。
特集では、それらの課題から選んだ3項目について詳しく報告いたします。

新菱冷熱CSR宣言

新菱冷熱CSR宣言は、中長期事業計画(3カ年計画)を包括した内容になっています。事業の継続・成長とともに社会的責任を果たすため、必ず達成することを目指すものです。

また、宣言文は、目標達成後には改訂または新たに策定するものであり、時代的・社会的背景に応じた実行戦略の指針としていくものです。

われわれ新菱冷熱は、経営ビジョンのもと、
次の3つの取り組みを宣言し、
環境創造企業に進化します。

1

先端的な生産手段を駆使した新たな業務モデルによる、高品質・省資源・省エネルギーな「ものづくり」と、快適で最適なライフサイクルマネジメントを実現させた独自の「ワンストップサービス」を提供します。

2

これらの技術をグローバルに展開し、地球温暖化防止、エネルギーの安全・安心で有効な利用という社会的課題の解決に取り組んでいきます。

3

そして、すべての事業活動の基盤となる透明性の高い経営とはたらきやすい企業風土の醸成に取り組めます。

特集 1

新菱サプライチェーンシステム

整流化された新たな業務モデル「新菱サプライチェーンシステム」で、独自の「ワンストップサービス」をお客様に提供します。

→ P.13

特集 2

人と技術のグローバル展開

世界から信頼される環境創造企業への成長を目指して、海外ではたらく仲間とともに、各国に快適で安心な環境と良質な技術を提供していきます。

→ P.15

特集 3

教育・人材育成

グローバルに活躍できる人材の育成を通じて、技術と知識と経験を次世代へつなげていきます。

→ P.17

CSR重点課題 社会への新たな価値提供

1

BIM+サプライチェーンの 業務モデル構築

- 3D-CAD化の推進
- モジュール化や調達・デリバリー方法の改革による施工サプライチェーンの構築
- 施工の効率化、建築資源・環境負荷の低減

2

ライフサイクルマネジメント (LCM) サービス

- BIM、コミッショニング、CFD、FMの技術を融合し、独自のLCMサービスを提供

3

省エネルギー技術、 低炭素化技術への取り組み

- エネルギー関連技術、低炭素化技術の開発と提供
- エネルギー需給者の双方に、最適化および面的利用技術を提供

4

グローバルへの展開

- 海外事業拡大に向けた人的基盤の整備

CSR基本テーマ

1

コンプライアンスへの取り組み

- 教育の機会を多様化し、継続して実施
- 相談窓口「ヘルプライン」の利用を促進
- コンプライアンス体制のPDCAを構築
- CSR調達の推進

3

環境保全と社会的投資

- 施工におけるCO₂削減の取り組み
- 環境保全活動への助成

5

教育・人材育成の実施

- 企業情報管理、個人情報保護
- 社員、協力会社に対する研修制度の充実

7

コミュニティへの参画および発展

- ボランティアへの休暇制度の導入
- 地方自治体や地域などとの防災協定締結による地域貢献

2

有事の際の滞りない事業活動に向けた取り組み

- BCPの再構築(危機管理対策規定の見直しを含む)
- 協力会社を含む有事への対応
- 周辺地域への災害対策関連製品の提供

4

現場のワークライフバランスへの取り組み

- 業務モデルの改革による効率化の実現
- 後方支援の充実による現場業務量の低減
- 休暇制度の実効性の向上

6

ダイバーシティへの取り組み

- 再雇用制度の導入
- 育児時短制度の利用期間の延長

8

国際的な枠組みへの参画

- 国連グローバル・コンパクト
- ケアリングカンパニースキーム(香港)

特集 1 新菱サプライチェーンシステム

整流化された業務モデルを お取引先とともに

近年の日本では、熟練した労働者による次世代への技能伝承が十分にできない、という切実な問題が起きています。

とくに建設業は就業者数が減少傾向にあり、拍車がかかっている状況です。

新菱冷熱は、先端的な生産手段を駆使した新たな業務モデルの推進が

その解決につながると考えています。

BIMデータを中心に、現場や加工などの場面に応じた業務に対し新菱冷熱独自の

「コミュニケーション・データ処理ツール」を構築し、「管理」「デリバリー」などを的確・迅速に行います。

新菱BIMソリューションやICT、そしてサプライヤーと連携したさまざまな取り組みは、

熟練技能者不足に対応するだけでなく、高品質・省資源・省エネルギーな「ものづくり」と、

安全・安心な職場環境づくりにも貢献します。

新たな業務モデルである「新菱サプライチェーンシステム」によって、

新菱冷熱は快適で最適なライフサイクルマネジメントを実現させた、

独自の「ワンストップサービス」を提供します。

新菱サプライチェーンシステムとは

新菱BIMという新たなソリューションを軸として、新菱冷熱は独自のワンストップサービスの提供を目指しています。このサービス実現のためには、サプライチェーンにおけるお取引先の協力が欠かせません。また、新菱スタンダードとよぶ基準の構築をはじめとするいくつかの施策によって、高品質で環境にやさしく、生産性の高い現場業務改革を実現しています。これらを総称し「新菱サプライチェーンシステム」とよんでいます。

資材部

- データを活用した集中購買
- 全社的な発注実績による基準単価の設定

運用管理部門

- 物流管理システム／データ共有システムの開発・運用・管理

連携

BIMセンター

- 新菱スタンダードの構築
- S-CADの機能強化



新菱サプライチェーンシステム構築による課題解決

品質への取り組み

課題

従来の施工方法・管理手法の延長では、エンジニアリングサービスの飛躍的な向上は困難

目標

ものづくりとサプライチェーンの革新により、いままでにない高品質なエンジニアリングサービスを実現

環境への取り組み

課題

省エネルギー、CO₂削減、アスベスト対策、産業廃棄物の適正処理などの地球環境保全への取り組み

目標

物流改革、輸送エネルギー削減等により、地球にやさしいエンジニアリングサービスを構築

労働慣行への取り組み

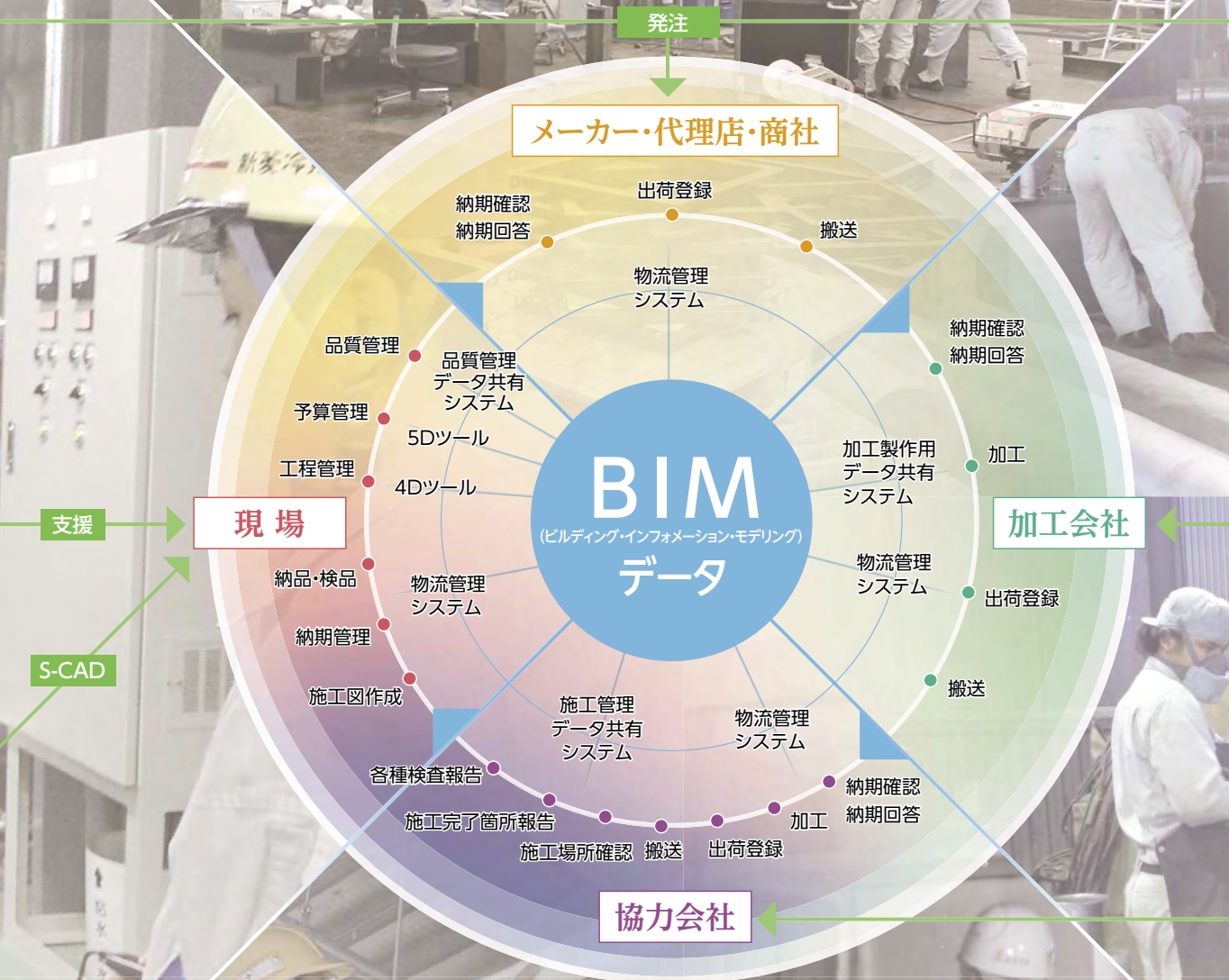
課題

建設業就業者数が減少傾向にある。とくに技能工・熟練工の減少・高齢化が著しい。

目標

BIM、ICTを活用した現場管理により、工事作業者の正確な判断とスピーディーな意思決定を支援

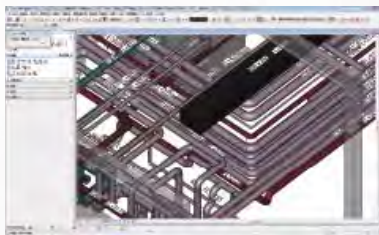
新菱サプライチェーンシステムの特長



サプライチェーンシステムを実現させるサービス

「S-CAD」

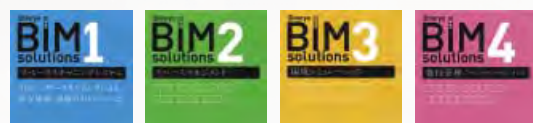
新菱冷熱が独自に開発したBIM対応の3次元CADソフトウェア「S-CAD」は、新菱BIMソリューションの中核を担う技術です。3次元の施工図の作成やレビュー機能をはじめ、施工方法のシミュレーション、配管時の干渉チェック、静圧・揚程計算、材料集計機能などを備え、さまざまな切り口で建築の「見える化」を支援します。



「S-CAD」画面

新菱BIMソリューション

設備更新を行うためのスペースマネジメント、レーザースキャナーを駆使したスペーススキャンシステム、室内気流解析・温湿度解析などの環境シミュレーション、維持・管理のためのファシリティマネジメントなど。新菱BIMソリューションは、「S-CAD」と、建築や設備に必要な多くの情報を総合的に扱うことで生産性を向上させ、お客様のさまざまなニーズにお応えするしくみです。



※BIM: Building Information Modeling

特集 2 人と技術のグローバル展開

人と技術でつながる。 世界から信頼される環境創造企業へ

各国の人々に愛される企業でありたい、
各国に快適で安心な環境をつくる良質な技術を提供したい、
新菱冷熱は海外ではたらくおよそ2,000人の仲間とともに、
人と技術で世界から信頼される環境創造企業に成長したいと考えています。

人とつながる

1978年の香港営業所開設から始まり、新菱冷熱はアジアを中心に海外に拠点を設置し、事業を展開しています。
新菱冷熱が目指す海外事業は、おのこの国や地元に基づき、そこで暮らす人々とともに成長するものです。
その実現のため、海外の主要拠点では現地法人による事業を展開しています。



新菱香港

海外現地法人の中でも香港は、早い時期から拠点が置かれたこともあって現地化が進んでいます。約400人のスタッフがはたらいており、社長やダイレクターの多くは、香港出身者です。



新菱シンガポール

新菱シンガポールでは350人ほどのスタッフがはたらいています。新菱冷熱のグローバルな展開を象徴するように、多国籍国家のシンガポールでは、シンガポールのほか、マレーシア、フィリピン、インド、ミャンマー、イギリスなど、いろいろな国の人々が一緒に仕事をしています。



タイ新菱

タイ新菱にはおよそ300人がはたらいています。女性の管理部長は、海外拠点の事務部門のスタッフにとって、ロールモデルのひとりです。海外現地法人では、多数の女性マネージャーが活躍しています。



新菱フィリピン

新菱フィリピンには、持ちまへのフットワークを生かし、フィリピン国内だけでなく、プロジェクトに応じて世界各地で活躍する約160人がはたらいています。

技術でつながる

地球温暖化防止、エネルギーの安全・安心な有効利用の実現は、世界の共通課題になっています。

新菱冷熱は、この課題解決に技術で貢献したいと考えています。

そうした技術の例として、コージェネレーションシステムと地域冷房技術があります。

コージェネレーションシステム



ペトロナス ペナピサン(マラッカ)
コージェネレーションプラント(マレーシア)



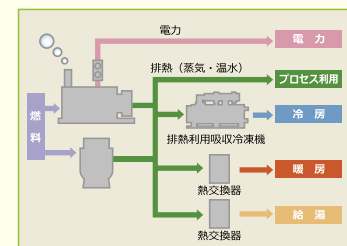
ペトロナス ファテライザー ケダ社
コージェネレーションプラント(マレーシア)



PTT Utility社
セントラルユーティリティプラント2(タイ)

コージェネレーションシステムのしくみ

コージェネレーションシステムは、ガスまたは油で発電機を駆動して電力と熱を得る技術で、「熱電併給」ともいいます。右図に示すように、システムを運転して得られる熱は、①蒸気・温水に変換し工場などのプロセスで利用したり、②吸収冷凍機で熱を回収し冷房に利用したり、③暖房や④給湯として有効利用することができます。熱を捨てずに利用するコージェネレーションシステムは、省エネルギー性にすぐれた技術です。



コージェネレーションシステムの基本構成

地域冷房



クアラルンプール国際空港
CGS/DCS プラント(マレーシア)



ブトラジャヤ地区1
DCSプラント(マレーシア)

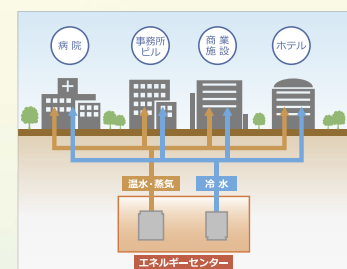


ザ・ヴェネチアン®・マカオ・リゾート・ホテル
大規模熱源(マカオ)

地域冷暖房のしくみ

地域冷暖房は、地域にエネルギーセンターを設置して、複数の建物に空調や給湯用のエネルギーを供給する技術です。エネルギー集約型の地域冷暖房は、建物ごとにエネルギーセンターを設置するシステムに比べ、CO₂やNO_xなどの排出を低減することができ、温暖化防止に貢献する技術です。アジアの各国では冷房システムのみを導入しています。

1970年に日本で初めて大阪・千里中央地区に地域冷暖房を導入しました。現在も、日本国内市場の4割以上を新菱冷熱が施工しています。



地域冷暖房の概要

特集 3 教育・人材育成

グローバルに活躍できる人材の育成を通じて、
技術と知識と経験を次世代へ

新入社員教育

入社後、約1年にわたる「耕風寮」での全寮制の教育は、創業当時から続く新菱冷熱の伝統です。「耕風寮」を人材育成の場とし、新入社員がともに生活し、学ぶことによって、同期の絆を深めるとともに、次世代を担うチャレンジ精神旺盛な社員を育成しています。また、技術系・事務系それぞれに対し最適な教育カリキュラムを設け、教育終了後は、配属先で自信をもってはたらくことができる体制を整えています。

充実した教育カリキュラム

●一次教育

講義
企業活動シミュレーション
技能体験活動
中央研究所見学
地域貢献活動
メーカー見学

●現場実習

●フォローアップ教育

●海外短期トレーニー制度

●施工図(S-CAD)教育(技術系)

●営業・経理実務研修(事務系)

●二次教育

施工図(S-CAD)教育課題発表会
講義
管理職との座談会



現場実習

研修寮「耕風寮」



コミュニケーションスペース

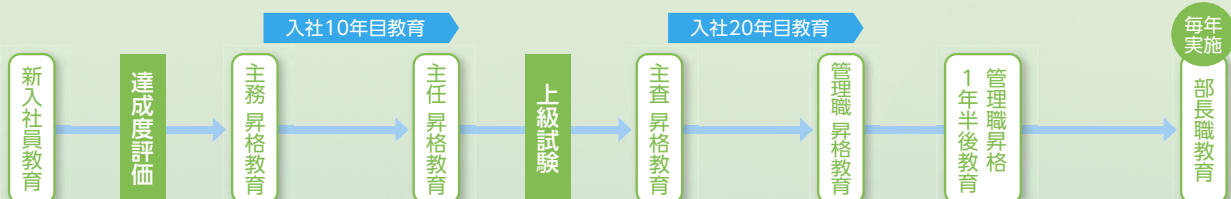


施工図(S-CAD)教育



食堂

階層別・年次教育



新菱冷熱は、創業以来「人は最大の財産」であると考えています。社員のもつ技術・知識・経験こそが、新菱冷熱の経営資源です。そのため、社員の力を最大限に引き出す人材育成を掲げ、チャレンジ精神旺盛で柔軟な発想をもった社員の育成を図ってきました。顧客ニーズの変化、地球環境問題に対して柔軟に対応できる人材はもちろんのこと、さらにグローバルに活躍できる人材育成を通じて、世界中に新菱冷熱の技術と知識と経験を展開していきます。

海外研修制度

1972年から海外事業に力を入れている新菱冷熱では、グローバルに活躍できる人材を重視してきました。そのため、海外への定期異動、米国実務研修、国内事業部から海外プロジェクトへの柔軟な人材派遣など、海外勤務経験者の人的基盤の構築に、積極的に取り組んできました。そして、2014年からは、海外展開のさらなる進展のため、社員の海外研修制度を拡充し、海外事業における対応力を強化しています。

海外研修制度

新入社員 海外短期トレーニー制度

全新入社員を海外の施工現場に派遣。現地に1週間滞在し、現場で実務研修を受けます。海外勤務や海外での生活、現場の感覚を肌で理解してもらいます。



香港の研修現場での集合写真

入社4年～8年目 海外実務派遣制度

国内で実務を経験した入社4～8年目の社員を対象に、1～3年の間、海外へ派遣し、現場の全工期を経験してもらいます。

Voice

海外トレーニー制度 参加者の声

- 日本人社員も海外現地スタッフも、プロジェクトの成功と新菱冷熱の発展という同じ目標をもっていました。その志があれば、日本で仕事をするのも海外で仕事をするのもまったく同じなのだと感じました。
- 海外ではたらくには、英語さえなんとかなればと考えていましたが、その国の文化、社会、歴史、経済なども知る必要があると感じました。

海外現地スタッフの人材育成

新菱冷熱は、主にアジアにおいて海外現地スタッフの雇用を進めています。2014年現在ではおよそ2,000人を雇用しており、国内社員の育成と同様に、海外現地スタッフの雇用・育成にも力を入れています。



新菱シンガポールでの講習会

中央研究所の研究員による技術指導

新菱冷熱の中央研究所が長年取り組んできた保有技術をグローバルに展開するため、研究員を講師として現地に派遣。技術講習会を行うとともに、建設現場を訪問し現場での技術的課題を議論するなど、海外現地スタッフの技術力向上と技術対応力の強化を図っています。

Voice

海外現地技術指導 中央研究所講師の声

- どの拠点も海外現地スタッフが熱心に質問してくれることに驚きました。
- 海外現地スタッフの技術習得の意欲に応えられるよう、技術展開、交流をさらに進めたいと思います。

海外現地スタッフの声

- これまで学んだことがない配管の腐食や音・振動対策の技術を知りました。これから活用していきたいです。とても有意義でした。

主な活動成果と今後の取り組み

CSRの取り組み項目を「社会への新たな価値提供」「基本テーマおよびコーポレート・ガバナンス」のもとに設定しています。

取り組み項目			2014年度の成果
重点課題 社会への新たな価値提供			
1	BIM+サプライチェーンの業務モデル構築	3次元CAD (S-CAD) の活用による施工の合理化	サプライチェーンモデル現場検証 (2件)、3D計測機活用推進 (34件)、S-CAD活用推進等
		新たな「業務モデル」の構築	S-CAD活用法を検討、AR技術実証 (1件)
2	ライフサイクルマネジメント (LCM) サービス	LCMサービス体制の整備	省エネ診断、コミッションング、リコミッションング、COP改善・リニューアル工事提案等の積極展開
3	省エネルギー技術、低炭素化技術への取り組み	エネルギー関連・低炭素化技術の研究開発と活用	最適運転制御などの開発、地域冷暖房・原子力施設、自然エネルギー利用等を活用
		空気環境改善技術の研究開発と活用	ホルムアルデヒド除去、タバコ臭気除去技術等の開発と活用を実施
		原子力関連・廃棄物処理・廃炉・除染への取り組み	放射性廃棄物の焼却・固化技術への取り組み強化
4	グローバルへの展開	海外事業の拡大に向けた人的基盤の構築	グローバル異動、海外実務派遣制度、海外短期トレーニー制度などを実施
基本テーマおよびコーポレート・ガバナンス			
—	コーポレート・ガバナンス	内部統制、業務監査	内部統制の継続的な見直し、現場を含む業務監査を実施
1	コンプライアンスへの取り組み	コンプライアンス教育	コンプライアンスニュース定期配信、実例教育や各部カリキュラムなど幅広く実施
		相談窓口「ヘルプライン」	ヘルプラインの継続運用、メールによる周知活動を実施
		暴力団排除条例等関係法令遵守	社員研修での遵守再徹底教育を実施
		CSR調達	「新菱CSR調達ガイドライン」を策定
		情報セキュリティ管理	情報セキュリティ教育を実施
2	有事の際の滞りない事業活動に向けた取り組み	BCPの策定、推進	BCP策定プロジェクト発足、BCP計画を策定中
3	環境保全と社会的投資	環境マネジメントシステム	ISO14001環境マネジメントシステムの継続運用
		現場におけるCO ₂ 削減量の見える化	現場のCO ₂ 排出削減量を社内掲示し、意識向上を推進
		車両排気ガス排出量の低減	環境配慮型車両の社有車採用の推奨 (全社で14%)
		石綿・有害物質等の適正管理と処理	ガイドラインに基づく石綿の適正除去、有害化学物質等の適正な管理・処理を実施
4	教育・人材育成の実施	現場力向上と管理職のスキル向上策の推進	各種教育制度、管理職教育、各部のOJT・新技術勉強会などを実施
		トラブル情報の展開	トラブル・リコール・事故情報を社内へ通知
5	現場のワークライフバランスへの取り組み	業務モデル改革による効率化	サプライチェーンプロジェクトを発足
		後方支援による現場業務量低減	施工図・設計・技術管理担当による現場支援を実施
		各種休暇制度の実効性向上	プロジェクト休暇取得実績の増加
		「こころオンライン」	心の相談窓口の継続運用
6	ダイバーシティへの取り組み	女性社員の活躍促進施策	女性社員検討チームによる施策検討を実施
		シニアの活躍促進制度	シニア向け新人事制度の実施
		障害者雇用	障害者の雇用を推進
7	コミュニティへの参画および発展	地域社会とのかかわり	国内・海外での地域清掃活動を実施 文化支援などを実施
8	国際的な枠組みへの参画	国連グローバル・コンパクト	国連グローバル・コンパクト参画 (2014年9月)
		ケアリングカンパニースキーム	ケアリングカンパニースキームの更新 (香港2社)

※2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)、2015年度(2014年10月1日～2015年9月30日)

参照ページ		2015年度の取り組み	ISO26000中核主題との対照						
			組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 事業慣行	消費者 課題	コミュニティ
	特集1 13-14	サプライチェーンプロジェクトによる新菱スタンダードの実用・検証				●	●	●	
		グループ会社と一体となったLCMサービス体制の強化			●	●	●		
	21	各種省エネルギー技術・低炭素化技術の開発・販売・導入を促進				●	●		
					●	●			
	特集2.3 15-18	海外現地法人との技術交流・人的交流の促進				●	●		
				●	●			●	
	24	内部統制システムの継続的な見直し	●	●	●	●	●	●	●
	25	・コンプライアンス体制の再構築 ・海外版コンプライアンス・ガイドンスの作成 ・遵守徹底教育を継続実施(100%実施) ・情報セキュリティ教育の継続実施と効果の検証	●				●		
	26		●	●			●		
				●		●			
						●			
	27	BCP計画の策定、総合訓練の実施	●				●		
	22-23	・ISO14001環境マネジメントシステムの継続運用 ・CO ₂ 排出削減量を、2014年度比5%増 ・環境配慮型車両の社有車採用率20% ・適正な除去、管理、処理の継続実施(100%実施)				●	●		
					●				
					●				●
					●	●	●		
	特集3 17-18	各種教育制度、各部OJTの継続実施および改善			●			●	●
	特集1 13-14	サプライチェーンプロジェクト「新菱スタンダード」導入による業務モデル 改革の推進			●			●	
	28				●			●	
	29		女性、高齢者を含むすべての社員の活躍を促す制度を継続検討		●				
				●					
				●					
		●							
	30	国内・海外での地域清掃活動、文化支援を継続実施							●
	6	国連グローバル・コンパクトでの分科会活動に参画	●	●	●	●	●	●	●
			●	●	●	●	●	●	●

環境／消費者課題

新菱冷熱では、国内の全事業部・支社で環境マネジメントシステム(ISO14001:2004)の認証を取得し、継続的に環境保全活動に取り組んでいます。

消費者と施工作業者の安全を確保するために、石綿の取り扱いに関する管理体制を整えています。

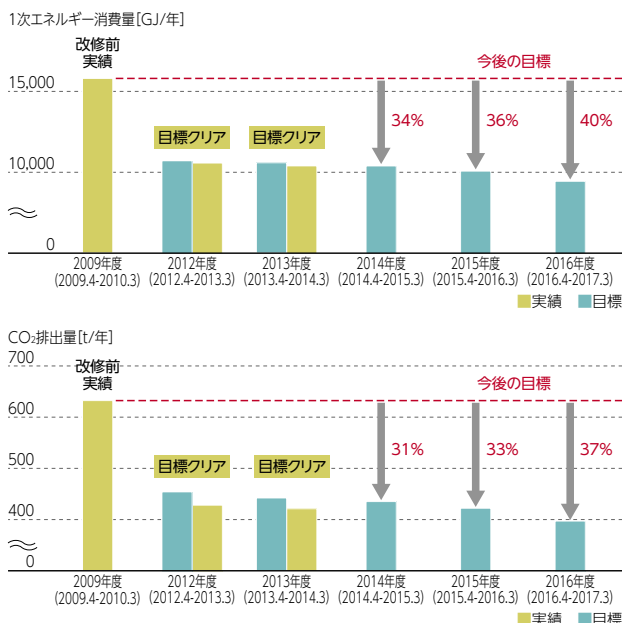
自社ビル省エネeco化プロジェクト

1970年竣工の当社ビルを改修し、「東京・四谷を、タスマニアに。」をテーマに、設備の改修だけで環境・省エネモデルビルにリニューアルしました(2011年9月竣工)。改修後1年目に続き、2年目にあたる2013年度(2013年4月～2014年3月)の運用実績は目標としたエネルギー・CO₂排出量削減率を上回りました。最終目標であるエネルギー削減率40%、CO₂排出量削減率37%(ともに2009年度比)に向けて継続的な省エネルギー対策と運用改善に取り組んでいます。

高効率ヒートポンプチャラーやコージェネレーションシステムなどの省エネルギー機器と太陽光発電、ソーラークーリングシステムなどの自然エネルギー利用技術を用い、エネルギー利用効率を高めています。



● 本社ビル改修による1次エネルギー消費量とCO₂排出量の削減効果



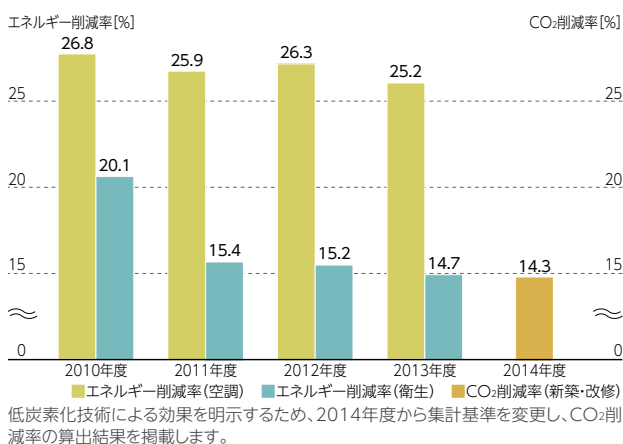
省エネルギー技術・低炭素化技術への取り組み

新菱冷熱は、2001年5月にISO14001の認証を取得して以来、13年にわたりEMS活動に取り組んできました。運用時のエネルギー消費量の削減をとくに重視し、建築設備の設計・施工の際に、省エネルギー技術および低炭素化技術の採用を積極的にお客様にご提案しています。

● 代表的な省エネルギー技術・低炭素化技術

- 熱源機器の高効率運転
- 排(廃)熱回収熱源の利用
- 再生可能エネルギーの利用
- コージェネレーションシステムの導入
- エアコン、PACの高効率機器の採用
- 搬送動力の軽減
- 換気負荷の軽減
- SEMS (BEMS) の導入

● 省エネルギーシステム・機器の提案または採用による省エネルギー効果



現場におけるCO₂排出量削減の見える化

建設における使用資機材の製造過程や現場への運搬燃料、資機材の加工・据え付け等さまざまな過程では多くのCO₂が発生しています。新菱冷熱では、30年以上前から現場におけるCO₂排出量削減に取り組んでまいりました。とくに、2008年からは“現場におけるCO₂排出量削減の見える化”を実施し、削減活動を強力に推進しています。

創意工夫から生まれた削減方法

現在までに、現場の創意工夫によってさまざまなCO₂削減方法・手段が実行され、50項目以上の削減方法・手法が標準化されています。数多く採用されている3項目とその効果について紹介します。

1. 3D-MAPS (3次元計測システム)

測量機器を基盤としたシステム「3D-MAPS」を使用し、計測と位置決め作業を行っています。これにより、施工の手直しを削減できて省資源が図れ、CO₂発生量が削減できます。



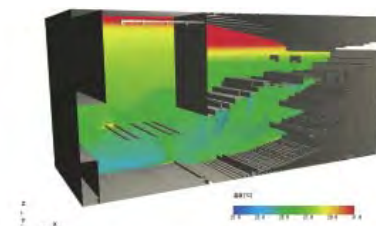
3D-MAPSによる計測作業

2. 環境にやさしい資機材の使用

要求品質を満足することを前提に、環境にやさしい資機材の採用に努めています。具体例として、高効率機器採用によるランニングコストの低減、リサイクル材料使用による製造時CO₂発生量の削減、軽量材料使用による搬入車の燃料節減などが挙げられます。

3. 事前検証による最適化

アトリウム・劇場などの大空間や高度な清浄度を要求される手術室など大きな空調負荷が見込まれる空間に対して、施工前に数値流体シミュレーション技術を使って要求品質と設計図書と比較検証を実施しています。事前に検証をすることによって、設備内容の最適化を行うことができ、省資源によるCO₂発生量の削減やランニングコストの低減が可能になります。

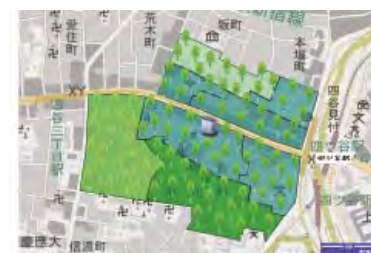


数値流体シミュレーションによる音楽ホールの温度分布解析事例

環境コミュニケーションプロジェクト

CO₂削減量を人工林面積と、ガソリンによる地球走行距離に換算して、毎月、社員に掲示しています。この活動によってCO₂削減の意識向上を推進しています。

● CO₂削減量の見える化



樹木のCO₂固定量に換算した人工林面積を本社周辺の面積で掲示

出典:「電子国土」 URL <http://portal.cyberjapan.jp/index.html>を加工して作成

	ガソリン消費 KL	走行距離 km	地球 周
今期	2,508	48,662.641	1,217
通期	11,881	230,497.436	5,762



ガソリン消費量・走行距離に換算した地球走行距離

生物多様性民間参画パートナーシップへの参加

新菱冷熱は、経団連自然保護協議会の活動支援とともに、生物多様性民間参画パートナーシップに参加し、生物多様性の保全に向けた活動の検討を始めました。まずは、生態系や生物多様性について学ぶことからスタートしていきます。生物多様性民間参画パートナーシップへの参加を通じ、多くのことを学びながら、新菱冷熱らしい取り組み方法を考えてまいります。



生物多様性民間参画パートナーシップについて

2010年5月25日、経済界を中心とした自発的なプログラムとして設立した、生物多様性の保全および持続可能な利用等、条約の実施に関する民間の参画を推進するプログラム「生物多様性民間参画イニシアティブ」。その中で提唱された「生物多様性民間参画パートナーシップ行動指針」の主旨に賛同し、行動指針(1項目以上)に沿った活動を行う意思のある事業者、およびそのような事業者の取り組みを支援する意思のある団体、NGO、研究者、地方自治体、政府等からなる「マルチステークホルダー」のイニシアティブが「生物多様性民間参画パートナーシップ」です。

石綿・有害物質処理

石綿障害予防規則の制定以降、社内の管理組織の設置や石綿管理担当者会議の開催、全国の石綿除去作業現場のパトロールを実施し、さらに新菱冷熱独自の「石綿施工サイクル」を運用することで、石綿除去作業における社員ならびに作業員への健康障害を予防するとともに、大気中への石綿飛散防止に全力で取り組んでいます。

石綿作業主任者資格の取得推進

新菱冷熱では、施工に携わる社員全員が技能講習を受け、石綿作業主任者資格を取得することを目指しています。2014年5月26日現在、1,053名の社員が石綿作業主任者の資格を保有しています。

海外での石綿除去作業の事例 バンチャック コージェネレーションプラント

国内だけでなく、海外においても石綿対策に力を入れています。たとえば、石綿に関する法規制のないタイにおいても、新菱冷熱の社員はもとより、海外現地スタッフ、作業員に対する健康障害防止に努めるため、日本の法律に則した対策をとりながら石綿除去作業を行いました。

写真はタイのバンチャックにあるコージェネレーションプラントの現場で行われた石綿スレート板の除去作業の様子です。



保護具を着用した現地作業員



石綿スレート板 除去前の倉庫



石綿スレート板を廃棄物処理場に埋立て処分

組織統治

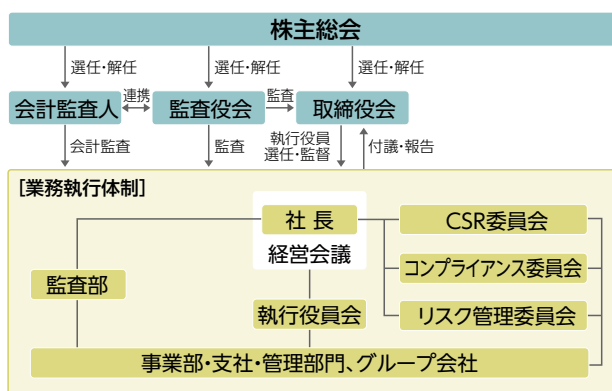
CSR宣言に則り、すべての事業活動の基盤となる透明性の高い経営とはたらきやすい企業風土の醸成に取り組めます。経営の透明性を確保し、迅速な意思決定を行うためのコーポレート・ガバナンス体制および内部統制のしくみを整えています。

コーポレート・ガバナンス体制

取締役会では、会社法上規定される付議事項および取締役会規程で定めた付議基準・報告基準に基づく上程議案を審議します。経営会議では、取締役会への上程議案の審議に加えて、会社経営に関する重要事項を審議します。執行役員会では、執行役員による業務執行状況の報告と経営会議における決議事項の周知、経営会議審議事項の事前意見聴取などを行っています。監査部は、制度、組織、業務活動等の有効性および効率性、コンプライアンスの適合性等を検証します。国内外の事業所だけでなく、2013年からは工事現場の監査も実施しています。

コンプライアンス委員会では、委員会および各部署統括責任者により、企業倫理・法令遵守意識の向上と徹底を図るとともに、相談窓口「ヘルプライン」に寄せられた相談・通報に対する方針決定、是正指示も実施しています。

●コーポレート・ガバナンス体制



内部統制

会社法においては内部統制システムの構築が義務づけられています。新菱冷熱では法施行以降、適宜、その見

直しを行い、業務遂行の適法性の確保と合理性、効率性の充実を図っています。

新菱冷熱の内部統制システムの概要(取締役会決議より抜粋)

1. 取締役、執行役員および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に関わる情報の保存および管理に関する体制
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 当該株式会社ならびにその親会社および子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
7. 取締役、執行役員および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
8. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

公正な事業慣行

新菱冷熱は、北陸新幹線の設備工事の入札に関して、独占禁止法違反の疑いにより、公正取引委員会および東京地方検察庁の立入調査を受けるという事態に至りました。この事態を厳粛かつ真摯に受け止め、社外の有識者・専門家のご意見を取り入れて再発防止に向けた取り組みを進めております。新菱冷熱の目指すところは、誠実公正かつ適切な経営を実現し、新菱冷熱の事業に与えられた社会的な責任を果たしていくことです。コンプライアンスの実践と業務の健全なる発展のため、新菱冷熱は、つねに真摯でそして誠実な会社であり続けたいと考えています。

コンプライアンス

新菱冷熱は、企業倫理・法令遵守の徹底を経営における最重要課題であると考えています。そして、全社員が法令を遵守し、社会の責任を果たします。

新菱グループ行動規範

新菱冷熱の社員は、社是、および行動規範・行動基準により、企業倫理・法令遵守に関する基本的かつ共通の意識をもち、また会社に対する高い帰属意識のもとで、日常の業務において行動規範・行動基準を積極的に実践します。

新菱グループ行動規範

行動規範 1

お客様の立場にたってお客様の満足を追求します。

行動規範 2

株主様のために経営の効率化を追求します。

行動規範 3

家族にも誇れるような快適でゆとりある職場を確保します。

行動規範 4

取引先とともに、企業倫理・法令を遵守し公正・透明・自由な競争を行います。

行動規範 5

社会のルールに従い社会の一員としてのあるべき姿を絶えず追求します。

行動規範 6

関係する国々の中で社会的責任を果たします。

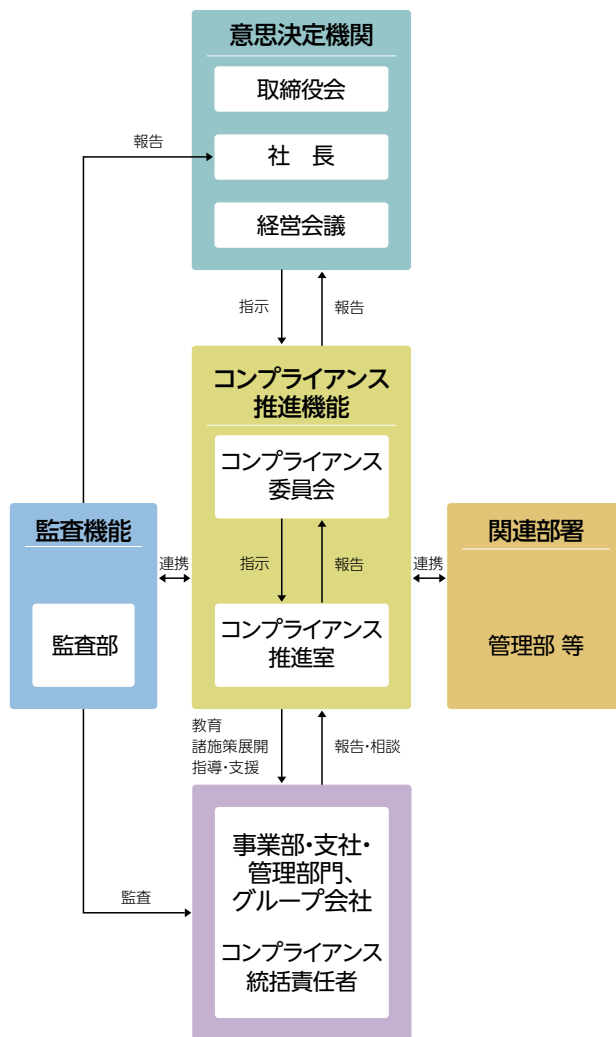


毎年、全社員に配布されるグループ手帳に記載された行動規範のページに署名し、遵守徹底を誓います。

コンプライアンス体制

企業倫理・法令遵守をよりいっそう徹底させるために、「コンプライアンス推進室」の設置ほか、制度・体制の見直し・強化を図っています。

●コンプライアンス体制図



相談窓口「ヘルプライン」の設置

法令違反行為、もしくは違反すると思われる行為、行動規範・行動基準に反していると思われる行為の相談、通報窓口を設けています。法令違反や社内不正などを防止また早期発見して是正することを目的としています。社員だけでなく新菱冷熱の業務に関わるすべての方に利用していただくため、周知に努めています。

コンプライアンス・ガイダンス

新菱冷熱の業務を遂行するうえでとくに重要なコンプライアンスに関する事項を「コンプライアンス・ガイダンス」としてまとめています。社員への冊子配布とあわせて、社内掲示板でいつでも閲覧できるようなしくみを準備しています。

さまざまなコンプライアンス教育の実施

新菱冷熱では、さまざまな機会や役職に応じたコンプライアンス教育を継続的に実施しています。2014年度では、各対象者別の年1回の教育のほか、中堅社員を中心とした実例教育(通算22回開催)や、各部独自のカリキュラムにて教育を企画するなど、幅広く実施しました。また、毎月、全社員向けに「新菱コンプライアンスNews」をメール配信するなど、全社員が、つねにコンプライアンスを意識し業務に取り組むことができる環境を整えています。

●2014年度コンプライアンス教育の対象者と教育内容

対象者	教育内容
全役職員	e-ラーニングでの情報セキュリティ教育
新入社員	コンプライアンス基礎教育
役員・部長	顧問弁護士による関係法令教育
昇格者	等級に応じたコンプライアンス教育
等級別	等級に応じた実例教育
事業部・支社	コンプライアンス全般教育

暴力団排除条例等関係法令の遵守

「反社会的勢力の威嚇には、絶対に屈しません。毅然として、勇気をもって排除します。」という行動規範・行動基準を

遵守し、内部統制の一環として取り組んでいます。社員研修の場で教育および周知徹底を図っています。

CSR調達

お取引先、とくに協力会社の皆様との協力・連携により、CSRへの取り組みを推進していきます。「新菱CSR調達ガイドライン」を定め、現在500社にのぼる企業の皆様にガイド

ライン遵守のご理解をお願いしています。2015年度には、全協力会社の皆様のご理解を目指し、取り組み状況の調査を開始すること考えています。

新菱CSR調達ガイドライン

(2014年度版)

1) 公正かつ健全な企業活動

自由な競争を阻害する行為や不正な競争などを行わず、公正かつ健全な企業活動を推進することをお願いします。

2) 品質・安全性および事業継続

有害物質の管理や製品の安全等に関わる法令を遵守し、製品の使用者や消費者の健康、安全の確保に努めてください。また、事業継続計画への自主的取り組みをお願いします。

3) 人権・労働・安全衛生への配慮

基本的人権を尊重し、労働環境や安全衛生に配慮した事業活動推進をお願いします。

4) 環境への配慮

生物多様性を含む環境保全および環境マネジメントを確実に実施し、地球環境に配慮した事業活動に取り組むようお願いします。

5) 法令遵守

各国・地域の法令ならびに国際条約や社会規範を遵守し、企業倫理に基づいた事業活動を行うようお願いします。

6) 情報の管理

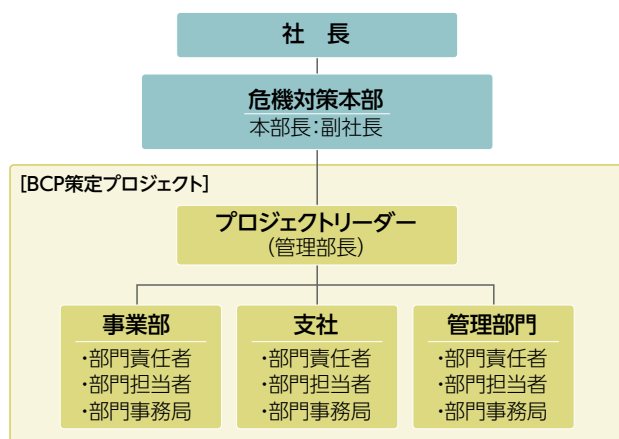
コンピューターネットワークの脅威に対する防御策を講じるとともに、事業に関わる秘密情報、個人情報適切に管理・保護し、それらを不正・不当に利用したり漏洩しないようお願いします。さらに顧客・第三者の機密情報の漏洩防止に努めてください。

BCP、協力業者を含めた有事対応

BCP策定プロジェクトの体制および目的

新菱冷熱は、大規模災害等の発生時においても事業活動を早期に再開するため、事業継続計画(BCP, Business Continuity Plan)を策定し、維持管理しています。「大規模災害や事件・事故が発生し、本社・事業部・支社等が被害を受けることで事業機能に支障が生じた場合、人命安全を確保することを前提に、許容される事業活動水準を保ち、許容される時間内に事業を復旧する」ことを目的としています。そして事前に被害を軽減させるための対策、事業リソースの確保方法、ならびに発生時の対応方法や対応組織を規定しています。

●BCP策定プロジェクト体制図



想定リスクの考え方

想定されるリスクには、地震・風水害などの自然災害、新型インフルエンザ、テロ・紛争、火災・爆発、システム停止、大規模停電等の事件・事故などさまざまな性質のものがあります。その中で、BCP策定にあたっては、以下の考え方に基づいてリスクを想定し、事業継続体制の構築・強化を図りました。

- (1) 今後発生する確率が比較的高いもの
- (2) 障害がインフラ等の多岐に及ぶ広域災害であり、事業継続を阻むハードルが高いもの
- (3) ほかの事象に対しても対応策として適用できる部分が多いもの

なお、今後は、事業環境の変動およびリスク環境の変化等を踏まえつつ、柔軟にかつ継続的にリスクの見直しを実行していきます。

協力会社の皆様との連携体制

震災等のリスクが発生した場合、新菱冷熱だけでは、お客様の施設・設備の復旧などの対応が遅れてしまうことが懸念されます。そこで新菱冷熱は、主に地震災害を想定して、協力会社の皆様との連携体制の整備と強化を進めています。

施工物件の一覧を整備し、個々の物件への対応を協力会社様にご担当いただくことで、地震災害時の設備復旧等の対応をスムーズかつ効率的に行う体制を構築しております。

また今後は、BCP策定プロジェクトによって実践力を高める活動を進めてまいります。

日常的な取り組み

大きな意味でのBCPの策定・実施に加えて、あらゆる事態に備えて、社員・家族の安否確認訓練の実施、自衛消防組織の訓練の徹底など、各事業所における機能の維持に向けた取り組みを実施しています。



総合消防訓練



自衛消防隊担当者訓練



災害用備蓄倉庫



全社員配布の防災袋

人権／労働慣行

新菱冷熱では、グローバル企業として各国においても人権を尊重し、行動規範の一つに「家族にも誇れるような快適でゆとりある職場の確保」を掲げ、さまざまな取り組みを行っています。

グローバルな人材活用

新菱冷熱の社是の一つ「学歴年令を問わない 実力ある者が指揮をとれ」は、海外では「学歴」「年令」に、「nationality（国籍）」を加えて英訳されています。各海外拠点において、社是は「Company Philosophy」として国内同様に行動の原点となっています。グローバル企業として発展していくためには、国籍・人種の垣根のない、幅広い人材の活用が必要であると考えています。

Company Philosophy

- Be fair and straightforward
(正しからざることに与するな)
- Do your best with all your effort
(あらん限りの誠実を尽くせ)
- Have leadership, irrespective of education, age, or nationality.
(学歴年令国籍を問わない 実力ある者が指揮をとれ)

社是英語版

ワークライフバランスへの取り組み

各種休暇取得促進制度

新菱冷熱は社員が心身ともに健康であることを第一と考え、効率よく仕事をこなし、社員同士がお互いをサポートしながら、休暇を取得しやすい職場環境をつくる取り組みの一環として、各種休暇取得の促進制度を導入しています。

● プロジェクト休暇

主に現場勤務の社員を対象に、現場竣工の節目に連続休暇を取得することで、心身ともに健康を維持し、次の現場への移動前にリフレッシュすることを目的としています。2014年度は279名が取得しました。

● アニバーサリー休暇

全社員を対象に本人や家族の記念日に休暇を取得できる制度で、年間合計3日間の取得を目標としています。

● リフレッシュ休暇

勤続10年、20年、30年の節目に社員の貢献に敬意を表し、また支えていただいた家族に対する感謝をこめて、連続した休暇を取得できる制度です。

Voice

プロジェクト休暇 取得者の声

- プロジェクト休暇制度を利用して、家族で3泊4日の沖縄旅行へ行きました。仕事のことは忘れて身も心もリフレッシュし、次のプロジェクトに新たな気持ちで臨むことができました。メリハリをつけて仕事ができる非常によい制度だと思います。

Voice

アニバーサリー休暇 取得者の声

- 4月に息子の大学入学式と娘の高校入学式が平日の同じ日に開催されたので、アニバーサリー休暇を利用してどちらにも出席しました。この制度のおかげで、家族との絆が深められました。



2014年度 30年勤続表彰(52名)

子ども参観日

仕事に対する家族の理解を得ることで、社員一人ひとりの誇りを育むために、社員の小～中学生のご家族を職場や建設現場などに招待する「子ども参観日」を実施しています。4年目を迎えた2014年度は、つくば市にある新菱冷熱の中央研究所で、夏休みの自由研究の題材になるような各種装置による実験の見学を行いました。総勢47家族150名が参加しました。



子ども参観日



こころオンライン

メンタルヘルスに関する相談窓口として、外部の専門家による「こころオンライン」を開設しています。このサイトにて、各種情報収集やメールによる相談ができます。

メンタルヘルス教育

社員の心身の管理と保持・増進を目的とし、管理職を中心とした「メンタルヘルス教育」を実施しています。2014年度は、職場でのメンタルヘルスの重要性について554名が受講しました。



メンタルヘルス教育

ダイバーシティ(多様な人材活用)への取り組み

女性社員の活躍を促す制度の促進

女性社員が、出産・育児というライフイベントを経験しながら、意欲をもって継続してはたらくための制度や環境を検討するため、2014年9月、女性社員による検討チームが発足しました。女性社員が、いまよりさらに活躍できるように、管理部、CSR推進室と一緒に検討していきます。



女性社員検討チーム

Voice

女性社員検討チーム 参加者の声

- 男性社員が大半を占める中で、女性社員が、いまよりさらに活躍し、会社に貢献するにはどうすればいいかを話し合いました。出産・育児というライフイベントを経ても、無理なくはたらき続けられる環境があってこそ、安心して仕事ができるのだと思います。

シニアの活用を促す制度の推進

新菱冷熱では、これまで会社を支えてきた嘱託等シニア社員を引き続き貴重な戦力と考え、能力に応じて活躍しやすい制度・環境づくりを推進しています。2014年度、重要な業務を担当する「嘱託S」を制度化し、やりがいとそれに見合う評価を充実させました。

●能力に応じた嘱託制度

分類	職務要件
1) 嘱託S	主任技師 海外現地法人社長または副社長
2) 嘱託I	現場代理人(現場常駐)
3) 嘱託II	その他現場員(現場常駐) 現場対応設計責任者(現場常駐) 現場事務(現場常駐)
4) 嘱託III	その他の嘱託再雇用者

コミュニティへの参画および発展

新菱冷熱は、社会の持続的発展に貢献する企業として、地域や文化を大切にする活動を積極的に実施・推奨しています。なかでも地域とのかかわりにおいては、目の前の小さな活動の積み重ねが大事だと考えています。

地域とのかかわり

新入社員による四谷清掃ボランティア活動

2014年度の新入社員61名が、新入社員教育の一環として、本社のある新宿区四谷地域のボランティア活動を行いました。歩道や植え込みにある空き缶やタバコの吸い殻を拾うことで、環境保全について考える機会をつくっています。また、この活動は、四谷の一員としての自覚を養うことを目的とし、新入社員を対象に毎年実施しています。

東北支社のボランティア清掃活動

2013年11月、東北支社の恒例行事である「芋煮会」の開催に合わせ、清掃活動を行いました。参加者10名が、仙台市を流れる広瀬川沿いの5キロの道のりでゴミ拾いを行いながら、芋煮会の会場に向かいました。この活動を通して、ボランティアの大切さをあらためて感じた1日でした。



仙台・広瀬川沿いのゴミ拾い

エコキャップ運動の実施

ペットボトルのキャップを専用容器で回収し寄付しています。これまで事業部や支社ごとに行われていた活動を、2010年からは全社的な活動として取り組んでいます。2014年9月時点の累計で729,545個、ワクチンにすると848本分となります。

フィリピンの地震・台風被災地へのお見舞いと支援

2013年10月15日に発生した地震の被災地および11月8日フィリピン中部を通過した台風30号の被災者救済および被災地の復興支援に役立てていただくための寄付をいたしました(日本赤十字社を通じた義援金100万円(新菱冷熱)、フィリピン赤十字社を通じた義援金20万ペソ(新菱フィリピン))。被害に遭われた皆様へ謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



新菱フィリピンからのお見舞い

文化・芸術への支援

各種団体等への賛助会員登録・協賛等を通して、文化・芸術への支援活動を行っています。2014年度の賛助会員登録を行っている音楽関連団体は以下のとおりです。

音楽関連の賛助会員登録先一覧(団体名・五十音順)

NHK交響楽団／オーケストラ・アンサンブル金沢／大阪交響楽団／

大阪フィルハーモニー交響楽団／神奈川フィルハーモニー管弦楽団／関西フィルハーモニー管弦楽団／九州交響楽団／札幌交響楽団／新国立劇場／新日本フィルハーモニー交響楽団／仙台フィルハーモニー管弦楽団／セントラル愛知交響楽団／東京交響楽団／東京都交響楽団／東京二期会／東京フィルハーモニー交響楽団／名古屋フィルハーモニー交響楽団／日本オペラ振興会／日本センチュリー交響楽団／日本フィルハーモニー交響楽団／広島交響楽団／読売日本交響楽団



〒160-8510 東京都新宿区四谷二丁目4番地
(03) 3357-2151 (大代表)
<http://www.shinryo.com/>

